



南阿蘇村で医療支援

熊本県で相次いでいる地震を受けて、戸田中央総合病院など28病院を運営する「戸田中央医科グループ」(中村隆俊会長)の災害医療支援チーム(TDR)の先遣隊が18日夕から熊本県内の土砂崩れ現場などに入った。「車中泊」を続けながら、医療支援活動や今後の本隊派遣につながる情報収集を続けている。同グループ本部によると、先

倒壊した民家の前で、先遣隊員と新座志木中央総合病院の救急車。19日、熊本県南阿蘇村(戸田中央医科グループ提供)

戸田中央医科のTDR

遣隊は医師2人、看護師2人、医療調整員1人の男性計5人。救急車とワゴン車の2台に分乗して17日に出発し、18日午後6時ごろ、南阿蘇村の土砂崩れ現場で現地警察や消防隊に協力して医療支援活動を開始した。

その後、先遣隊は熊本県庁や各自治体、避難所を訪問して医療ニーズ情報の収集に努めている。同グループ本部は、避難所などでの長期ケアを想定し、医師や看護師のほかにリハビリセラピストの専門家などの派遣を検討している。(岸鉄夫)